

【オール新見！公募型まちづくり事業】 これまでの取組状況

No	実施年度	団体	実施事業名	実施事業内容
1	H29.30	にいみライスカレー協会 (会長 渡辺誠)	地域資源を活かした商品開発・普及啓発・情報発信への挑戦 ～にいみダムカレー・鍾乳洞カレー大作戦！～	【目的】 市内に主要ダムが6ヶ所あるという特徴とA級グルメを活かしたカレーを掛け合わせたダムカレーを媒体として、新見市の地域資源を活かした商品開発・普及啓発・情報発信を行うための一連の手法確立に向けた取り組みを実践する。  【実施した事業】 ・市内でダムカレー提供店を募り、13店舗で販売することとなった(協会の定めた基準をクリアした店舗)。 ・ダムカレーカードの作成やスタンプラリーの開催を通して、ダムカレーを自当てとした市外からの観光客の増加にも寄与した。
2	H29.30	写真で新見を繋げる会 (会長 高瀬智司)	写真のチカラ 新見イイトコ再発見プロジェクト	【目的】 豊かな自然や歴史的遺構に恵まれた市内の美しい風景等を写真として切り取り、市の内外にPRすることで、市内においては新見市への愛着や幸福度の向上、市外においては新見市の認知度やイメージの向上を図る。  【実施した事業】 ・会員による新見市内の美しい風景等の探求及び撮影を行った(2年間で計71点の写真を作成)。 ・作成した写真を使って、市内での展示会をはじめ、市外5市での巡回展や島根県立美術館での展示を行った(来場者数は、3,000人超)。 ・市外での展示会で来場者アンケートを取った結果、新見市への魅力を感じた割合が95%を超えるとともに、新見市へ実際に行ってみてみたいという声も多く、新見市のPRや交流人口の増加に貢献したものと感じている。
3	H29.30	新見みらいづくり 会議実行委員会 (実行委員長 田原隆盛)	新見みらい人材育成事業	【目的】 市内中学生を対象に、同実行委員会の構成員などが出前授業を行い、新見への思いなどを直接語ってもらうことで、ふるさとへの愛着と誇りをもってもらう。 また、「新見の未来をみんなで創る」ことを目的とした市民参加型の会議を開催する。  【実施した事業】 ・市内の全中学校、新見高校、希望した小学校で「出前授業」を行い、新見市の石灰や干屋牛といった魅力を伝えることで、市への愛着心の向上につなげた。アンケートでも「初めて知った」や「将来は新見で働きたい」という声もあり、将来につながる授業となったと感じている。 ・新見みらいづくり会議を開催し、様々な立場の人でディスカッションすることで、市の将来像や取り組むべきことについて、市民意識の向上が図られたと感じている。
4	H29.30	千屋振興会 (会長 金盛洋文)	空き家・移住対策事業	【目的】 空き家が多くなっている現状から売買・賃貸できる物件を掘り起こし、移住希望者にアピール・案内をする。集落機能の維持を図り、希望として移住者のうち何人かは「なりわい」を起こせるよう協力し、地域の活性化につなげる。 また、本取組を他地域へ拡大させるため、行政との協働により、各地域で取組事例の説明などを行う。  【実施した事業】 ・市役所及び移住交流支援センターと連携し、事業を実施した。 ・空き家の掘り起こし及び移住希望者に対する物件案内やサポートを実施し、2件成約。 ・研修会を開催するとともに、市内の他地域へ働きかけを行い、千屋振興会の取組を紹介した。
5	H30	NPOきらめき広場 (会長 奥津一富美)	哲西地区空き家活用・移住促進事業	【目的】 空き家情報の収集と売買・賃貸可能物件の掘り起こしをすすめ、新見市並びに他地域と連携し移住希望者の受け入れ態勢の構築を図る。  【実施した事業】 ・千屋振興会の取組を哲西でも実施。 ・空き家の調査(69件)を行い、空き家情報バンクへの登録を承諾した物件情報を市へ提供した。 ・「空き家問題を考える会」を開催し、今後の移住促進策について協議を行った。 ・移住希望者の現地案内を行い、1件成約。
6	H29.30	にいみ木のおもちゃの会 (代表 藤本忠男)	生涯木育による地域の活性化	【目的】 岡山県が素材生産量日本一であるヒノキを使った木のおもちゃ等を活用し、イベント実施や公立大学との連携により、子どもをはじめとするすべての人が木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らせる新見市の実現を目指す。  【実施した事業】 ・東京おもちゃ美術館と連携し「森のゆうえんちinにいみ」を開催し、600名を超える来場者を記録。 ・おもちゃの広場を定期的に開催するとともに、要望に応じて出前でおもちゃ広場を開催した(計24回開催、参加者約2,000人) ・その他、ヒノキの香り玉プロジェクトや山の日プロジェクトを実施し、関係人口の増加にも寄与した。
7	H30.R1	Re:new (代表 中石いつか)	新見まるごと情報発信事業 ～SNSの活用～	【目的】 行政の信頼性を背景に、民間の自由で柔軟な発想・視点による情報発信を協働して行うことで、幅広い年代への新見市の広報活動の広がりが期待される。また、市内在住者や市出身者らゆかりの人々の新見市に対する愛着や誇りの醸成を図るほか、交流人口の増加を目指す。  【実施した事業】 ・HPを立ち上げ、市内のイベントを月別カレンダーで紹介。また、実際に参加した様子をブログなどで発信。 ・SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)で、行政からのイベント情報だけでなく、各種民間イベントや店舗の情報などを幅広く発信したことで、新見市にゆかりのある外国の人からも反応があるなど、一定の効果を感じた。 ・災害時には、市HPの通行止め情報などをSNSで発信し、反響があった。
8	R1～	新見商工会議所青年部 (会長 田原 秀郷)	キッズタウン in にいみ	【目的】 市内の小学生を対象とした職業体験事業を実施し、仕事→給料→銀行→納税→買い物という基本的なお金の動きについて体験を通して学ぶ事で経済感覚を養う。 また、市内の仕事について知ってもらうことで、将来的に新見での就職を選んでもらえるような意識醸成を図っていく。  【実施内容】 10月に「キッズタウンinにいみ」を開催し、市内の小4～6年生100名が職業体験を行った。11業種から3業種を体験するとともに、仮想通貨による給料支給や納税体験も行った。好評だったため、令和2年度も実施。
9	R1	にいみの森フェスタ 実行委員会 (実行委員長 石田 堯庸)	音楽で人の和を作る「ドラムサークル」活動の推進	【目的】 YAMAHA・新見公立大学などと連携し、全世代を巻き込み、世代を超えた「和」を生み出す機会を提供するため「ドラムサークル」活動及び「ドラムサークル」活動の中心を担う「ファシリテーター育成事業」を行う。 また、市内内外にドラムサークルを周知するため、10月に開催予定の「にいみの森フェスティバル2019(仮)」においてPR事業を実施する。  【実施内容】 ・11月2日(土)に「にいみの森フェスタ」を実施し、午前午後とドラムサークルを行った。 ・2月22日(土)にドラムサークルファシリテーター勉強会を行った。 ・2月29日(土)にも、ドラムサークルファシリテーター勉強会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止。
10	R1 (年度途中で中止)	蛇神楽応援隊(子じゃ隊) (事務局代表 赤木 美)	蛇神楽応援隊を通じた外部とつながった地域づくり	【目的】 新見市哲多町矢戸の宮ノ峠、只野、町の3集落に江戸末年間から伝わる「蛇神楽」(新見市指定重要無形民俗文化財)の保存と伝承を図るため、当該集落以外の人たちによる応援ボランティア組織「蛇神楽応援隊(愛称:子じゃ隊)」をスタートアップし、その活動を軌道に乗せ、2021年の実施年に向け蛇神楽を盛り上げ支援する。同時に、伝承文化を活かして外部とのつながりを構築した持続可能な地域づくりを目指す。  【実施内容】 メンバー募集のPR活動や伝承のための資料収集等を行っていたが、諸事情により年度途中で中止。